

2 トマトの品質向上栽培法試験

昨年度は、秋の裂果が少なく食味が良い中玉トマト品種を選定する比較試験を行いました。有望となった品種のうち、シンデイスweetには、尻腐れ果の発生が多いという課題が残りました。これを受け、今年度はシンデイスweetに大玉トマト「桃太郎8」を加えて、「灌水量」と「花房への石灰資材の噴霧散布」に注目し、尻腐れ果の発生を抑制する方法を検討しました。

●試験条件

灌水量（慣行区と半減区）、石灰資材（無散布区と散布区、資材名セルキープ）を組み合わせ
①慣行+無散布 ②慣行+散布 ③半減+無散布 ④半減+散布 の4試験区で実施

●耕種概要

品 種：桃太郎8（大玉、タキイ種苗）・シンデイスweet（中玉、サカタのタネ）

作型等：夏秋どり、無加温ハウス、施肥量は慣行による

播種日：4月15日 定植日：5月31日 収穫期間：7月15日～10月14日

●生育経過

栽培期間中はたびたび高温乾燥環境下となり、「尻腐れ果」の他、「チャック果窓あき果」、「裂果」、「傷果」、「軟果」などが発生しました。これらの障害は発生要因が一部共通するとみられるため、尻腐れ果と併せて確認しました。

●調査結果の概要

(1)尻腐れ果の抑制について

尻腐れ果の発生率は大玉・中玉に共通して、灌水では半減区より慣行区が低く優位で、灌水量の差による一定の効果が認められましたが、石灰資材については期待した効果は得られませんでした。

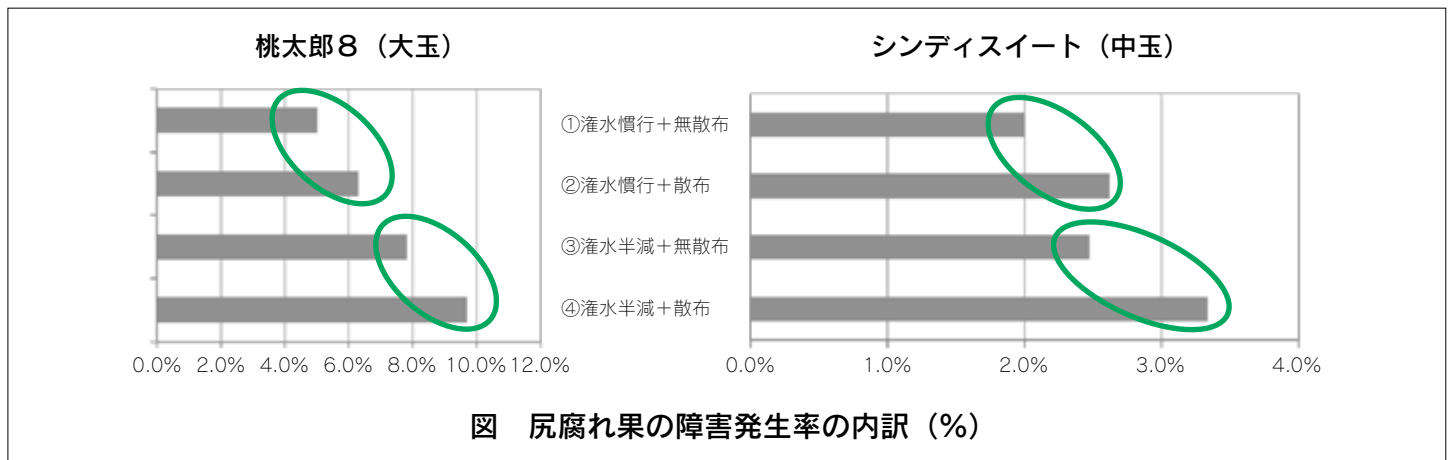


図 尻腐れ果の障害発生率の内訳 (%)

(2)タイプ間の違い

尻腐れ果は大玉で多く発生しました。また、大玉では裂果が非常に多く、次いで「尻腐れ果」、「チャック果窓あき果」、「傷果」の順に多く発生しました。中玉では傷果の発生が多く、「傷果」、「裂果」、「軟果」、「尻腐れ果」、「チャック果窓あき果」の順に多く発生しました。

(3)灌水条件の差が影響した障害：大玉・中玉共通

傷果・尻腐れ果の発生率が半減区より慣行区で低く、優位でした。

(4)石灰資材散布の有無の差が影響した障害：大玉・中玉共通

裂果の発生率が無散布区より散布区で低く、優位でした。

●考察等

尻腐れ果について、高温乾燥条件が続いた場合の発生では、樹勢が一時的に強くなった後の肥切れも影響したと考えられるため、生育経過と調査結果から、高温乾燥対策を重視して灌水量の調整を優先すべきと思われます。



▲大玉の生育状況（8月1日）



▲中玉の尻腐れ果の発生状況